

未来館 news 91

福島県男女共生センター広報誌
2025 summer

特集

令和6年度 福島県男女共生センター地域課題調査・研究事業



一粒の

ご褒美を

当センターでは、男女共同参画社会の形成の促進を目的とした研究を公募し、その成果・提言等が福島県における男女共同参画の推進に寄与すると認められるものに、研究委託しています。令和6年度に採択された事業内容についてご紹介します。

インタビュー調査に基づく
探索的研究

福島大学 キャリアセンター キャリアオフィサー／特任准教授

石井由貴さん

宇都宮大学 DE&I 推進センター 特任助教

川面充子さん

福島県の未就学児を育てながら
働く女性が健康的かつ主体的な
キャリア形成を実現するための要因



石井 由貴 さん

代表研究者
福島大学 キャリアセンター
キャリアオフィサー／特任准教授

目的

本研究は、福島県において未就学児を育てながら働く女性が、心身ともに健康で主体的なキャリア形成を実現するための要因を明らかにすることを目的とする。現在、出産後も働き続ける女性は増えているが、育児と仕事の両立が困難で離職するケースも多い。特に小さな子どもを育てながら働く女性は、家庭と仕事の間での葛藤が大きく、精神的な健康リスクが高いことが指摘されている。こうした女性が自分なりの目標を持ち、周囲の支援を受けながら前向きに家庭生活や仕事に取り組む「キャリア自律」の状態を実現することが、持続的な就労に有効であると考えられる。これまでの研究は男性や首都圏の事例が多く、地方都市における子育て中の女性のキャリア形成に関する知見は乏しい。したがって、本研究では福島県におけるこうした女性たちがキャリア自律に至るプロセスとその要因を探り、地方における支援策や環境整備への提言を目指す。

調査・研究の内容 および方法

- 福島県内の未就学児を育てる正規雇用の女性を機縁法でリクルートし12名から協力を得た。
- 半構造化面接形式で、1人1時間程度のインタビューを実施した。
- 質問項目は「現在の仕事・家庭状況」「仕事と家事育児の両立」「将来やキャリアアップ」等。
- インタビュー後、逐語録を作成し、発言から共通項目を整理・分類し意味づけて分析した。

結果 1 ― インタビュー対象者の属性概要

調査対象の12名のうち1名は経営者であったため分析対象から除外し、最終的に被雇用者である11名のデータを分析に用いた。対象者の属性は表1に示す。

表1 インタビュー対象者の属性概要

No.	仮名	地域	年齢	職業	同居家族・子ども	親族による支援
1	A	中通り	30代前半	教員	夫・3歳双子	実両親より日常支援あり
2	B	中通り	30代後半	団体職員	夫・中学生・小学生・6歳	なし(遠方など)
3	C	中通り	40代	技術職	夫・3歳双子	実両親・姉妹より支援あり
4	被雇用者ではなかったため分析から削除					
5	E	中通り	30代前半	営業職	夫・小学生・6歳・2歳	実両親たまに支援あり
6	F	会津	30代前半	公務員	夫・2歳・実父	義両親たまに支援あり
7	G	会津	30代後半	公務員	夫・3歳・猫	両家両親日常支援あり
8	H	浜通り	20代後半	医療	夫・5歳・3歳・0歳6ヶ月	なし(遠方)
9	I	浜通り	30代前半	団体職員	夫・3歳・1歳	なし(遠方)
10	J	浜通り	40代前半	事務職	夫・2歳	実父たまに支援あり
11	K	中通り	30代後半	事務職	小学生・0歳10ヶ月	なし(遠方)
12	L	浜通り	30代前半	公務員	夫・6歳・4歳	両家両親日常支援あり

結果 2 ― インタビュー分析結果

インタビュー逐語録をもとに内容を整理・分類した結果、調査対象の女性たちのキャリア形成に関する発言は、【職場に関すること】【家庭に関すること】【産前産後の悩み】【両立の葛藤】【キャリア継続の工夫と展望】【地域性】の6つの大カテゴリ、および36の中カテゴリに分類された。(詳細は報告書「表2」)※P4 QRコードよりご覧ください。

考察

分析結果から、調査対象の女性たちの状況と必要な支援について以下のことが推察された。

●就業継続の条件

子育てをしながら働く条件として、職場面では制度の整備や上司の理解、家庭面では夫や親族の協力・支援について多く語られた。特に家事育児を母のみでなく夫・親族・保育園といったチームで対応する体制が就業継続の重要な要件であった。また保育園での預かりが柔軟に運用されることや、子育て中の女性だけでなく全体で「お互いさま」の意識がある職場環境づくりが必要と考えられた。

●産前産後の悩み

産前産後には孤立感や自己評価の低下が多く見られ、復職の困難さや職場での評価低下に対する不満の声があった。同時に、職場復帰が社会参加の機会としてリフレッシュにつながることも複数語られた。地方行政に対して、SNS等を活用した子育て資源の情報提供や、自分を取り戻す時間を持つための利用しやすい一時保育サービスへの要望が切実であった。

●仕事と家事育児の両立の葛藤

復職にあたっては職務内容よりも家庭生活と両立できる条件を優先する傾向がある。夫の育児参加に不満を持つ声も多く、負担の偏りが女性の体調不良やキャリア形成の制限につながっている認識があった。夫婦間の協力体制だけでなく、社会全体で残業削減など男女ともに働きやすく生活しやすい働き方をさらに広げる必要がある。

●キャリア継続の工夫と展望

自ら家族に協力を求め自分の時間を確保する工夫をしたり、前向きに将来のキャリアを考えたりする女性もいた。管理職への抵抗感が多く語られたが、問われればやりたい仕事や目標を語る人も多くみられた。意欲を尊重する環境づくりが働き続ける力となることが示唆された。

●地域性

避難を経験した地域では子育てへの歓迎と協力があり助かる一方、教育資源の不足から将来は転出を考えるという声があった。保育環境の整備はどの地域でも急務であり、地域の魅力ある子育て資源を再認識したり教育環境が向上することが定住促進の鍵となることが示唆された。

まとめ

福島県で未就学児を育てながら働く女性へのインタビューから、就業継続には職場の制度や立地といった条件に加えて、職場・家庭における協力体制がいかに構築できているかが関わることが明らかになった。また女性たちは産前産後の孤独感やキャリア形成への不安、ワンオペ育児の負担など困難を抱えるとともに、働くことを自己肯定感や社会とのつながりと捉える声もあった。多忙ゆえに普段からキャリア形成について考える余裕はなくとも、問われれば仕事や環境への希望を語る女性が多かった。そうした希望を持つことが就業の継続や生活の充実、ひいてはキャリア自律へつながると考えられ、女性たちが自らの経験や価値観について語り合えるようなコミュニケーションの場を設け、内省や気づきを促す対話を重ねていくことが、キャリア形成を支援する上で必要であると考えられた。今回女性たちによって語られた言葉に地域社会全体で真摯に耳を傾け制度や風土を変化させていくことが、地方で子育てをしながら働く女性たちがその人らしいキャリア形成をしていく上で必要であり、ひいては地域社会の発展につながると考えられる。

本研究調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

- 令和6年度福島県男女共生センター地域課題調査・研究事業の全文は報告書をご確認ください。➡



特集に関するおすすめ本 《当センター図書室所蔵》

1 『〈共働き・共育て〉世代の本音』

本道敦子/著 山谷真名/著 和田みゆき/著 光文社 2024年▷

この本では〈共働き・共育て〉を行う「ミレニアル世代」のインタビュー調査を行い、仕事と子育ての両立を難しくする原因と対処法を、たくさんの実例とともに紹介します。子育て中に起きやすい「妻のキャリアロス」「夫のプライベートロス」を防ぎ、男女ともにキャリアを形成するにはどうすればよいか、その方法も提案します。

※ミレニアル世代=1980～2000年前後生まれの人

2 『ワーク・ファミリー・バランス』

高橋美恵子/編 慶應義塾大学出版会 2021年▷

性別にかかわらず、誰もが「仕事」と「家族との生活」を選択できる社会。日本がワーク・ファミリー・バランスを実現する上で問題となる「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分業観を変えるヒントを、スウェーデン、ドイツ、オランダと比較しながら探る本です。

問い合わせ 福島県男女共生センター図書室
☎0243-23-8308

開館時間 9時～20時
(休館日前日は17時まで)



- 日 時: 令和7年6月5日(水) 13:30～16:10
- 参加者: 県内各市町村男女共同参画担当者 38名
- 会 場: 福島県男女共生センター
- 内 容:

●基調講義「男女共同参画って何?」

福島県男女共生センター館長 千葉悦子

●福島県共生社会・女性活躍推進課からの令和7年度事業の紹介

福島県共生社会・女性活躍推進課 職員

●福島県男女共生センターからの施設及び令和7年度事業の紹介

福島県男女共生センター 職員

●ワークショップ「出し合おう!企画案」

県内市町村で男女共同参画の業務等を担当する職員を対象に、男女共同参画に関する基礎的な知識や福島県共生社会・女性活躍推進課や当センターからの情報の提供、市町村担当者間での意見交換等を目的とした研修を実施しました。

今後も当センターでは、県内にて男女共同参画を推進するため、市町村の取組への支援を継続してまいります。



今回参加された市町村一覧



参加者の方の感想

- 男女共同参画の定義から教えていただき、大変参考になりました。今自分が普通に働けていることは、過去の女性達が主体的に声をあげてくれた結果であることを改めて実感しました。
- まずはイベント等に自分自身が参加し、男女共生社会の理解を深めたいと思いました。

◎男女共同参画に関する研修会等に講師を派遣します!!「研修講師派遣事業」

【どんな事業?】

- ・市町村や企業、団体等が実施する男女共同参画に関する研修会等へ、センター職員等を派遣します。
- ・市町村や団体等が講師を選定する際の情報提供等も行います。

【テーマは?】

男女共同参画/女性活躍/ワーク・ライフ・バランス/DV/ジェンダーにまつわるハラスメント/LGBTQ 理解/防災・復興と男女共同参画 など

【令和6年度実績は?】

センター職員派遣12回/外部講師派遣5回

【問合せ】

0243-23-8304 福島県男女共生センター事業課



Quiz ふくしまジェンダークイズ



Q.「この数字はなあに?」

1 3時間6分

2 39分

※広報誌内に答えがあります!



いわき市

市民協働部
男女共同・多文化
共生センター

今回は、令和6年度に行われた、いわき市市民協働部 男女共同・多文化共生センターの取組についてご紹介します。

ご紹介くださった方：いわき市市民協働部
男女共同・多文化共生センター 主査 長瀬 和広さん

「男女共同参画の日」講演会

「あなたの地域は災害時に、命と健康を本当に守れますか？」
～高齢者・子ども・女性の視点から対策の質を上げよう！～

■日にち：11月10日(日)

■講 師：浅野 幸子 氏 減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表
早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員



11月の第2日曜日である「男女共同参画の日」に、市内の防災関連女性団体等を対象として、災害対策での男女共同参画の視点の重要性について、能登半島地震などにおける支援の実情を踏まえた課題などについての講演いただきました。グループワークでは、災害時の避難所において想定できる諸問題にどう対応するかについて意見交換を行い、関係団体の横連携の必要性を改めて感じました。

女性活躍推進セミナー（いわき市女性活躍推進企業認証指定講座）

「アドラー心理学に学ぶ！女性が活躍できる職場づくり」

■日にち：10月30日(水)

■講 師：北村 優子 氏 産業カウンセラー、アドラー心理学勇気づけトレーナー



「アドラー心理学」の理論をもとに、女性が活躍でき、誰もが働きやすい職場となるための対人関係のヒントなどについて講義いただきました。ペアワークを体験することで、自分の思い込みに気づき、質の高いコミュニケーションの重要性について学ぶことができました。

市役所出前講座「男女共同参画ってなんだろう？」

■日にち：6月27日(木) いわき市立久之浜中学校 2年生22名

■日にち：11月29日(金) いわき市立江名中学校 2年生50名



性別による役割分担や差別をなくし、男女が平等に機会を得て、学校や家庭など、あらゆる場面で活躍できる環境を整えることの重要性について講義しました。真剣に耳を傾ける生徒が多く、理解の促進が図られました。

転入女性交流のつどい2024

■日にち：10月16日(水)、12月4日(水)

いわき転入女性の会と共催で、「おしゃべり交流会」、「クリスマス交流会」を開催しました。参加者は自己紹介後、いわきに住んだ感想やお勧めのお店等の日常生活の話題などで和やかに懇談し、親睦を深めていました。



担当者：長瀬和広さんから皆様へ

本年度は市民・学生・企業の意識・実態調査を行い、現行の「第四次いわき市男女共同参画プラン」の改定に反映させていくこととしています。今後も男女共同参画社会の実現に向けた意識の醸成や男女共同参画社会を推進する地域の人材の育成を図るため、様々な事業を展開してまいります。



にじーず
郡山

LGBT(そうかもしれない人を含む)の子ども・若者の居場所づくりに取り組む団体「にじーず郡山」の活動についてご紹介します。

ご紹介くださった方：一般社団法人にじーず 代表 遠藤 まめたさん

トランスジェンダー当事者としての自らの体験をきっかけにLGBTの子ども・若者支援に関わる。近著に「教師だから知っておきたいLGBT入門」(ほんの森出版)ほか。NHK Eテレ「虹クロ」監修。

今春より、郡山市でもLGBT(かもしれない人を含む)の子ども・若者の居場所「にじーず郡山」が始まりました。私たちは全国でLGBTの子ども・若者が安心して集まれる居場所を運営しており、郡山での開催は東北地方では仙台に次いで2拠点目となります。開催頻度は年4回ほど日曜日の午後に、日頃から市内で若者支援に取り組んでいるこおりやま子ども若者



ネットワークセンター「ゆ〜くる」さんの居場所をお借りしています(郡山駅の近くです)。UNOなどのゲームで遊んだり、お絵描きをしたり、おしゃべりをしたり、たわいのない繋がりでありながらも、普段学校や家庭では話しにくいことでも安心して相談できるような温かい場所にできたらと思っています。10代から23歳までのLGBTや、そうかもしれないと考えている人だけが参加できる小さな集まりです。



にじーずに参加する中高生や、大学生世代の人の中には、学校や家庭の中で、自分のことを言えずに苦しんでいる人が少なくありません。参加者たちは「初めて行ったときに、人が沢山いるのを見ただけで、自分だけではないのだと安心できた」「ここではありのままの自分でいられる」などと語ります。居場所に参加して勇気付けられ、困りごとを先生に相談できるようになったりと、孤立が和らぐことの意義は大きいと考えます。ある国内の調査では、孤独感が「しばしばある・常



にある」と回答した人の割合は、10代のLGBTでは平均よりも8.6倍高いとの数字が出ています。若い世代がひとりぼっちで悩まなくてはいけな社会を変えたい、その一歩としてにじーずの取り組みがあります。



郡山に暮らす子ども・若者たちの中にも、一定の割合でLGBTの当事者がいて、人知れず悩んでいるかもしれないことを、ぜひ大人の皆さんにも気に留めていただけたらと思います。そして若い当事者のみなさんには、郡山にも仲間がいることを伝えたいです。無理に話さなくてもいい、あなたがあなたのままでいられる場所の選択肢の一つとして、もし関心があれば遊びに来てくださいな。

●にじーず郡山ホームページはこちら ➡



福島県からの お知らせ

Information from Fukushima



とも家事とは、性別に関わらず、共に協力し合って家事に取り組むことです。

県では、女性に負担が偏りがちな家事について、イベントや各種キャンペーンを展開することにより、とも家事の実践拡大につなげていきます。

「とも家事」キャッチコピー 大募集！

ぜひ、ご応募
ください！

県民の方が「とも家事」をはじめたくなる、「とも家事」キャッチコピーを募集します。

最優秀作品に選ばれた作品は「とも家事」をPRするポスターをはじめ、様々な広報物に使用します。

●応募メ切 ———
令和7年8月29日(金)

●入賞作品発表 ———
令和7年11月下旬予定

※詳しくは、
こちら



最優秀賞

1作品

優秀賞

1作品

佳作

6作品

5万円分のギフトカード

2万円分のギフトカード

5千円相当の
県産品詰め合わせ



とも家事
アクションウィーク

毎月第3日曜日(家庭の日)から1週間を「とも家事アクションウィーク」として、毎月のテーマに沿ったキャンペーンを展開していきます。

Quiz ふくしまジェンダークイズ



Q.「この数字はなあに？」の答え

..... A.福島県内の女性・男性の家事労働時間



家事に関連する時間は、まだまだ女性が長いですね。

1	3時間 6分		女性の家事労働時間(平日)
	3時間16分		// (土曜日)
	3時間27分		// (日曜日)
2	39分		男性の家事労働時間(平日)
	1時間 3分		// (土曜日)
	1時間20分		// (日曜日)

(令和3年社会生活基本調査:総務省)

アンケートにご協力ください。



広報誌「未来館NEWS」では、よりよい紙面づくりに向けアンケートを実施しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマなど、Googleフォームにて受け付けております。

アンケートはこちらから→



「無いから得られることもある」

by ico.

表紙イラスト&4コマ漫画作者

ico.(いこ)

イラストレーター
防災士(福島市防災士の会 会員)

1985年宮城県名取市生まれ、福島県福島市在住。

雑誌の挿絵や企業広告をメインに、自治体の観光PRのデザインやイラストも手掛ける。福島市防災士の会 会員。防災啓発をイラストで伝える。

—— 講演や問い合わせはHPへ

<http://icollecion.me/>——

◎表紙協力:

「就労支援A型事業所福島ケアサービス」

当センターに対するご意見・ご質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。

(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構

福島県男女共生センター(女と男の未来館)

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

TEL:0243-23-8301(代) FAX:0243-23-8312

<https://www.f-miraikan.or.jp>



X



Instagram

未来館 news 91 2025 summer